

月十五日、神輿二基、一基宇治産沙、一基槇島座沙也

○今来嶺 在彼方町東南、今云離宮山

○扱社 在離宮鳥居北一町計、鳥居へ南向、小祠へ西向、傍有榎老木、所祭藤原忠文靈へ忠文見盛衰記平家物語

一七 山城名所寺社物語 宝曆七年（一七五七）

著者未詳／新修京都叢書二 光彩社 昭和四二年

（卷之三）

○橋姫

宇治橋の西づめの社なり、離宮の神夜橋姫へかよひ給ふといへり、其時は波にこえ聞ゆるといふ（後略）

○離宮社 へ宇治へ（「宇治祭」の挿し絵あり）

此社を離宮八まんといふはあやまり、山崎に離宮八まんあり、此社は平の忠文の霊を祭れり、（忠文の故事略）、毎年五月八日に御祭礼あり

一八 都名所図会 安永九年（一七八〇）刊

秋里籬島／新修京都叢書一 光彩社 昭和四三年

（巻五）

離宮八幡宮 は橋寺の南にあり、祭る神三坐にして上の社は応神天皇仁徳天皇下の社は菟道の尊を崇め奉る（是平等院の鎮守なり、宇治郷の産沙神とす、神輿三基、例祭は五月八日）

扱社は当社の北にあり、離宮の扱社なり（離宮と号することは此地に宇治宮ありしゆえ自然の称号なり、又一説には当社の神は民部卿平忠文が霊を祭るともいへり、（忠文故事略）かくて此霊を宥めんため神

にはひて宇治に離宮明神と崇め、後冷泉院の御宇治曆三年十月七日正三位をさづけ給へり

（「宇治川」「宇治 興聖寺 恵心院 離宮八幡」「橋寺 宇治橋 通円が茶屋」の連続挿し絵あり）

橋姫の社（前略）一条禅閣の御説には、離宮の神夜毎に通ひ給ふとて晝毎におびただしく浪のたつ音のするとなん

一九 西国巡礼道中細見大全 天保十一年（一八四〇）刊

俣野通尚編・池田東籬補

○奈良より宇治三室戸へすぐ道（中略）

新田より 半り 宇治へ宿・茶屋あり

宇治橋辺宿あれども、何れも花麗なり、心安く泊らんと思ふ人ハ、宇治の入口本町に葉茶を売家三軒あり、其家に宿するなり、本町より四五丁行、左は宇治橋、右は平等院へ立石あり

△平等院へ裏門より入なり△鳳凰堂へ屋根に鳥あり△釣殿観音へ以上、平等院なり△当寺に源三位頼政の武具あり△扇の芝

へ頼政自殺せし処也△駒繫の松 また此辺に、三室戸迄に、宇治十帖の古跡あり、望の人ハ尋べし、又平等院の前、川中に浮島の塔有

しが、洪水に倒れて台石斗残る、次に宇治橋の詰に橋姫明神の宮有、橋三の間の欄干に釣瓶あり、茶の水をくむ処△橋の小島が崎へ今ハ

なし△槇の嶋八橋より下也、橋の右手に朝日山見ゆ、向ふの橋詰に通円が茶屋あり、是より右の方へ行△橋寺△恵心院△離宮八

幡宮△興聖寺△山吹の瀬△亀石へ川中にあり△是より橋へ戻

り大路方より三室へ行

宇治より 十三丁 三室戸八門前二茶屋式三軒あり▽

此辺茶園多し △蜻蛉石ハ宇治十帖のうち▽

二〇 花洛羽津根 文久三年（一八六三）刊

著者未詳／新撰京都叢書二 臨川書店 昭和六一年

(四)

○離宮八幡 同宇治の橋寺南二丁に有

祭る処石清水同体なり、又一説にいはいはく藤原忠文相馬持門退治の後、恩常への事に付深く恨む事ありて飲食を断て死す、其悪霊様々の妖怪をなす、仍其霊を宥めんため此地に祭といふ、離宮の号は菟道の親王の御所ありしゆへなり、例祭五月十五日

○叔の社 離宮の鳥居の北一丁訂にあり

この社を藤原の忠文の霊也といふ、実説にや、傍に榎の老大樹あり

二一 宇治川兩岸一覽 文久三年（一八六三）

暁晴翁／淀川兩岸一覽宇治川兩岸一覽 柳原書店 昭和五三年

(上)

離宮八幡宮 ハ橋寺の南にあり、祭神三座にして上の社は応神天皇・仁徳天皇、下の社は菟道の尊を崇め奉る、平等院の鎮守にして宇治郷の生土神也、神輿三基、例祭五月八日、叔社は当社の北にあり、離宮の摂社なり▽

当社を離宮と号する事は此地に宇治宮ありし故、自然の称号也

ハ又一説には、当社の神は民部卿平忠文が霊を祭るともいへり、則此地忠文が別荘にて（忠文故事略）斯て此霊をなだめんため神にいはい

て宇治の離宮明神とあがめ後冷泉院の御宇治曆三年十月七日正三位をさづけ給へり▽

(下)

橋姫社（前略）

一条禅閣の御説には、離宮の神夜毎に通ひ給ふとて暁毎に夥しく浪の立音のするとなん

二二 京華要誌 明治二八年（一八九五）刊

京都市参事会／新撰京都叢書三 臨川書店 昭和六二年

(上) 名勝 遊覽曆表の項)

(四月八日) 式内宇治神社ハ宝物縦覧▽

(下) 名勝)

宇治神社 久世郡宇治町宇治川東

世に離宮八幡宮と称す、上下二社あり、社伝に云、仁徳帝の御宇鎮座するところなりと、延喜式に祈年祭に預り鞆各一箇を奉る、後冷泉帝治曆三年平等院に御幸のとき正三位を授けたまふ、長承年中土人私に祭を行ひ離宮祭と称せり、仁平三年前関白忠実平等院の三綱所司以下をして悉く田楽散楽を供せしむ、極めて華靡なりければ第中に延かしめ臨み觀られしとぞ、近年下社を郷社に列し地方の産土神となせり

本社 菟道稚郎子を奉祀す

上社拜殿 一種古雅の建築にして星霜いとふり傾欹せり、されと其古建築なるを以て今度大に修理を加へ保存せり

二三 京都土産 明治二八年（一八九五）刊

未詳／新撰京都叢書一〇 臨川書店 昭和六〇年

（大社一覽 東前頭）

同 宇治神社

二四 宇治名勝案内記 明治三二年（一八九九）刊

舟木宗治

（祭典法会）

節分夜 宇治上宮豆焼

五月 八日 宇治神社神幸

五月廿八日夜 宇治神社旅所奉幣式

六月 八日 宇治神社還御

十二月卅一日 宇治神社新火貫ヒ

（本文）

●又振神社 またぶり社は藤原忠文を祀る、忠文は将門征討の恩賞に洩しを憤り小野の宮を罵り宇治川に没して死す、此辺は忠文邸宅の跡なり

○宇治神社 離宮八幡と云、上下二社あり、延喜式に宇治神社二座とある即是なり、此地は稚郎子尊宮居し給ひし桐原日桁宮の旧地にして、毎年神祭は五月八日出興宇四番町の御旅所に神幸、六月八日還幸（上下二社御同列にて神輿三基太鼓、獅子、劍鉾等行列す、宇治橋渡御の時遠望すれば美観なり）、御旅中種々の祭典ある中に五月廿八日夜奉幣式あり、俗に長者のたらりと云、始め永井氏より献ぜし幣竿にて再び長者氏より奉幣し雪掻の翁の仮面を被り翁の舞を奏す、往古は能師

宇治座藤井幸大夫勤めしが今は神宮にて勤む●下宮 宇治川畔松樹鬱蒼たる間に朱の大鳥居あり傍に川に依りて御手洗あり、当社は仁徳天皇元年五月の草創にして今の本殿は永承年中の建造、祭神は菟道稚郎子尊、式内郷社にして宇治町の産土神なり、神宝には雌雄獅子頭（後冷泉天皇修理職竹田道清作）翁面（銘雪掻、神垣の雪中より出でしもの）卅六歌仙（慶長十六年徳川寄付）破魔弓（正徳年中徳川寄付）祝詞殿古瓦、拜殿古瓦、鳥居の鉄銅輪（直径三尺永祿四年と刻す）等なり、神官長者氏は由緒正しき旧家にして古来より代々当社に奉仕す●上宮 下宮の奥桐原山の麓喬木鬱蒼たる中にあり、正殿は延喜式年中の建造、俗にチヨンノ作り、三座にして中応神天皇、右仁徳天皇、左稚郎子尊、此御扉裏には大鷦鷯、稚郎子二尊の御像を画けり、数百年前の古画なり、尊は人皇十五代応神天皇第七皇子、御兄大鷦鷯命を先ちて皇太子とならせ給ひしが、兄命に位を譲り自ら薨じ給ふ、後延喜元年神託により山城の国司に命じて此地に神殿を造営せしめ、離宮八幡大宮と申奉る、拜殿は院の御所の殿舎を賜りしといふ、摂社末社多き中に岩を祀るあり、岩戸大神といふ、又春日社殿は永正時代の建物御手洗の清水は桐原水といふ、杉と桧の古木は神宮遙拝所なり、境内桜多し、式内村社にして槇島村の産土神なり

二五 旧都巡遊記稿 大正七年（一九一八）刊

秋本興朝／新撰京都叢書四 臨川書店 昭和六〇年

菟道神社

社伝を按ずるに、当社は仁徳天皇の御宇に鎮座せる所にして、延喜式に祈年祭に預り鋏剣各一個を奉り、後冷泉帝治暦三年平等院に行幸の

時正三位を授けらる、長承年中土人私祭を行ひ、離宮祭と称へ、世に離宮八幡宮と号す、華表に正一位離宮大神の額を掲げ、菟道稚郎子尊を奉祀す、本社は華表の北にありて南面し、拝殿及び絵馬殿は其前にあり、伊勢両宮遥拝所、日吉・春日・住吉社は本社の左側に、橿原宮遥拝所、伊勢両宮・松尾・高良・広田・稻荷社は本社の右側にあり、本社の奥殿は其北半町許を隔てたる所にありて、前に拝殿あり、正殿は延喜年中の建営にして拝殿も亦た古代のものなり、今者大に修理を加へて保存を謀れり、祭神は中央応神天皇、右仁徳天皇、左稚郎子尊なり、本社に並び春日・豊受・稻荷・岩戸大神社あり、本社の左側に橿原神宮遥拝所あり、其傍に杉及槻の大樹あり、又た揚巻の名所は此の拝殿の地なりと云

離宮八幡御旅所

春日神社の東南にあり、本社は東面し、其祭礼に当り神輿を此処に置く

1859	安政 6.10. 4	中島広足	⑥	北の山べなる離宮八幡にまうづ、橋寺・恵心院興正寺（興聖寺）など行見る
1861	文久 1. 2.22	近藤芳樹・梅桜日記	⑥	恵心院・離宮八幡・橋寺などめぐりてかへさに平等院にいる
1861	文久 1. 4. 3	深見篤慶・文久日記	⑥	恵心院、離宮にまうでて、やどりにかへるころ日くれたり
1862	文久 2. 3. 6	未詳・伊勢道中日記	⑧	宇治渡し、此处にて毎年四月廿日夜蛭合戦有、浮嶋之塔有、夫より離宮大神参詣す

「来訪年月日」欄の○で囲った数字は閏月をしめす。

- ①『史料京都見聞記』1 駒敏郎・村井康彦・森谷尅久 平成3年 法蔵館
- ②『本居宣長全集』16 大久保正 昭和49年 筑摩書房
- ③『史料京都見聞記』2 駒敏郎・村井康彦・森谷尅久 平成3年 法蔵館
- ④『碧冲洞叢書』14 梁瀬一雄 平成8年 臨川書店
- ⑤『解題書目21 伊紀農松原1』 青森県立図書館 平成4年
- ⑥『史料京都見聞記』3 駒敏郎・村井康彦・森谷尅久 平成3年 法蔵館
- ⑦「深見篤慶の『文久日記』—解説と翻刻—」梁瀬一雄 → 『愛知淑徳大学国語国文』11 愛知淑徳大学国文学会 昭和63年
- ⑧「『伊勢道中日記』について」圭室文雄 → 『茅ヶ崎市史研究』2 茅ヶ崎市史編集委員会 茅ヶ崎市役所 昭和52年

離宮社関係紀行一覧

西暦	来訪年月日	著者・書名	出典	記 事
1683	天和 3. 4. 4	未詳・千種日記	①	恵心院の北に離宮八幡宮有、此神は藤原忠文なり、此人將門追討の宣旨を給はりて東国にくだりしのち、藤実頼の讒によりてその功を賞ぜられず、忠文ふかく此事をうらみて、ついに死してのちたたりありしにより、此所に宮をたててまつられしとなり
1748	延享 5. 4. 25	本居宣長・日記 (宝暦二年迄之記)	②	伏見京橋二著畔ス、宇治平等院、興聖寺、恵心院、離宮、三室戸、本尊開帳、黄壁(檜)山、再入京、三条大橋東宿屋松屋権兵衛亭二止留ス
1800	寛政12.④.21	伯邦・但州浴泉記	③	恵心院、菟道の宮、興聖寺なども一々見廻りぬ
1801	享和 1. 3. 13	石塚龍麿・花のしら雲	④	恵心院なる宇治の離宮と申にまうでて、さて興聖寺にものす
1809	文化 6. 2. 29	菊池久左衛門成章・伊紀農松原	⑤	八幡宮大社、此辺の制札に上林六郎とあり
1816	文化13. 6. 8	未詳・旅日記	⑥	宇治橋の前より左へ分り、川に付、離宮八幡へ詣り、恵院にいたる
1838	天保 9. 3. 28	未詳・十国巡覧記	⑥	此(恵心院)北に離宮八幡宮あり、其傍に叔の社といふあり、平忠文の霊を祀る、元忠文が別荘の地也、忠文は承平の頃平將門征伐の時、秀郷・貞盛・忠文等將軍として事ゆえなく將門を追悼せしにより、勅賞の沙汰ありけるに小野宮清慎公、疑しきをば行はずと申されければ、九条右大臣実頼公、刑の疑しきをば行はず、賞の疑しきは行へとこそ承り候へと申されければとも遂に忠文には其沙汰なかりけり、忠文本意なきことに思ひ、手を握て立たりけるが、八つの爪手の甲迄徹りて、血は紅をしぼり、断食して死けり、其儘悪霊となりさまさまの祟をなしければ、小野公の家は絶にけりかくて此霊を宥んため、神にいはいて明神に崇め其後將三位を授給へり、我儕曾て白河の友人田子通と日本蒙求を編次す、依て能く其伝を覚居たり、蒙求には、警賦の事を載す
1838	天保 9. 8. 16	石瓦翁撰・百たらずの日記	⑥	離宮の太神、同八幡の宮を拝み、朝日山恵心院・興聖寺など見廻り同じ所林道春の碑見侍るに日ははやくれなんとす
1855	安政 2. 5. 5	清河八郎・西遊草	⑥	早朝やとをいて右の方に進み、離宮明神をすぎ三、四丁すすみて禅宗開山の道玄和尚の在せし興聖寺をすく

番号	資料名	年月日	備考	
1043	亥御年貢可納割付之事	文化12.10	上林永二郎→右村庄屋年寄惣百姓	
1044	当子御年貢可納割付之事	文化13.10	上林永二郎→右村庄屋年寄惣百姓	
1045	当丑御年貢可納割付之事	文化14.10	上林永二郎→右村庄屋年寄惣 [	
1046	当午御年貢可納割付之事	文政 5.10	上林六郎→	後欠
1047	当未御年貢可納割付之事	文政 6.10	上林六郎→右村庄屋年寄惣百姓	
1048	酉御年貢可納割付之事	文政 8.10	上林栄次郎→右村庄屋年寄惣百姓	
1049	寅御年貢可納割付之事	文政13.10	上林栄次郎→右村庄屋年寄惣百姓	
1050	辰貢賦皆納目録	明治 2. 3	京都府→右村庄屋年寄惣百姓	
1051	午年租税定状	明治 3.11	京都府→	
1052	当申年租税定状	明治 5.11	京都府知事長谷信篤→右村戸長	
1053	明治六年癸酉租税皆済帳	明治 7. 5	京都府知事長谷信篤→槇島村戸長惣百姓豎	
1054	槇島村寅御成箇御勘定目録			後欠
1055	卯年免定			後欠
1056	午年免定			後欠
1057	未年免定			後欠
1058	(免定)			前後欠
1059	午年清帳目録(上・下兩組年貢割付)			後欠
1060	(村入用勘定目録)			前欠
1048	酉御年貢可納割付之事	文政 8.10	上林栄次郎→右村庄屋年寄惣百姓	
1049	寅御年貢可納割付之事	文政13.10	上林栄次郎→右村庄屋年寄惣百姓	
1050	辰貢賦皆納目録	明治 2. 3	京都府→右村庄屋年寄惣百姓	
1051	午年租税定状	明治 3.11	京都府→	
1052	当申年租税定状	明治 5.11	京都府知事長谷信篤→右村戸長	
1053	明治六年癸酉租税皆済帳	明治 7. 5	京都府知事長谷信篤→槇島村戸長惣百姓豎	
1054	槇島村寅御成箇御勘定目録			後欠
1055	卯年免定			後欠
1056	午年免定			後欠
1057	未年免定			後欠
1058	(免定)			前後欠
1059	午年清帳目録(上・下兩組年貢割付)			後欠
1060	(村入用勘定目録)			前欠

番号	資料名	年月日	備考	
1007	午年〔 〕目録	元文 4. 5	増田村右衛門→右村庄屋惣百姓中	
1008	寅御年貢皆済目録	延享 4.10	庄屋助右衛門他→小堀十左衛門御役所	
1009	辰年免定	寛延 1.11	小堀十左衛門→庄屋年寄百姓中	
1010	申年御年貢皆済目録	宝暦 3. 6	槇島村庄屋九兵衛他→小堀十左衛門御役所	
1011	(宝暦四戌年免定)	宝暦 4.11	小堀数馬→庄屋年寄百姓中	前欠
1012	(宝暦四戌年皆済目録)	宝暦 5. 6	槇島村庄屋才兵衛他→小堀数馬御役所	前欠
1013	丑年免定	宝暦 7.11	小堀数馬→庄屋年寄百姓中	
1014	(宝暦七丑年皆済目録)	宝暦 8. 8	庄屋才兵衛他→小堀数馬御役所	前欠
1015	卯年御年貢皆済目録	宝暦10. 6	槇島村庄屋才兵衛他→小堀数馬御役所	
1016	辰年御年貢皆済目録	宝暦11. 9	槇島村庄屋才兵衛他→小堀数馬御役所	
1017	午年御年貢皆済目録	宝暦13. 6	庄屋孫兵衛他→小堀数馬御役所	
1018	(宝暦十三未年皆済目録)	明和 1. 6	槇島村庄屋孫兵衛他→小堀数馬御役所	
1019	申年御年貢皆済目録	明和 2. 6	槇島村庄屋九兵衛他→小堀数馬	
1020	酉年御年貢皆済目録	明和 3. 6	槇島村庄屋九兵衛他→小堀数馬御役所	
1021	戌年御年貢皆済目録	明和 4. 6	槇島村庄屋九兵衛他→小堀数馬御役所	
1022	亥年御年貢皆済目録	明和 5. 6	槇島村庄屋九兵衛他→小堀数馬御役所	
1023	子年御年貢皆済目録	明和 6. 6	槇島村庄屋九兵衛他→小堀数馬御役所	
1024	辰年御年貢皆済目録	安永 2. 5	槇島村庄屋善吉他→小堀数馬御役所	
1025	巳年御年貢皆済目録	安永 3. 3	槇島村庄屋太郎左衛門他→小堀数馬御役所	
1026	午年御年貢皆済目録	安永 4. 5	槇島村庄屋太郎左衛門他→小堀数馬御役所	
1027	未年御年貢皆済目録	安永 5. 3	槇島村庄屋九兵衛他→小堀数馬御役所	
1028	申年御年貢皆済目録	安永 6. 3	槇島村庄屋九兵衛他→小堀数馬御役所	
1029	戌年御年貢皆済目録	安永 8. 8	槇島村庄屋新右衛門他→小堀数馬御役所	
1030	亥年御年貢皆済目録	安永 9. 3	槇島村庄屋新右衛門他→小堀数馬御役所	
1031	卯年御年貢皆済目録	天明 4. 3	槇島村庄屋新右衛門他→小堀数馬御役所	
1032	酉年免定	寛政 1.11	内藤重三郎→庄屋年寄百姓中	
1033	(寛政元酉年皆済目録)	寛政 2. 2	槇島村庄屋善左衛門他→内藤重三郎御役所	前欠
1034	子年免定	寛政 4.11	内藤重三郎→庄屋年寄百姓中	
1035	寅年御年貢皆済目録	寛政 7.3	槇島村庄屋新兵衛他→内藤重三郎元御役所	
1036	卯年免定	寛政 7.11	小堀縫殿→庄屋年寄百姓中	
1037	巳年免定	寛政 9.11	小堀縫殿→庄屋年寄百姓中	
1038	未年免定	寛政11.11	小堀縫殿→庄屋年寄百姓中	
1039	(文化三寅年免定)	文化 3.10	上林六郎→右村庄屋年寄惣百姓	前欠
1040	寅御年貢皆済目録	文化 3.		後欠
1041	卯御年貢皆済目録	文化 4.		後欠
1042	未御年貢口納割付口事	文化 8.10	上林六郎→右村庄屋年寄惣百姓	

番号	資料名	年月日	備考
971	(祝詞書付)		
972	(祝詞書付)		
973	(祝詞書付)		
974	(祝詞書付)		
975	(祝詞書付)		
976	(祝詞等書付)		
977	告辞		
978	稊詞		版
979	中臣之大稊		
980	中臣稊文		
981	神拝之作法略式		
982	神拝之作法略式		
983	身曾貴太稊		
984	身曾貴之稊文		
985	神代之凶		虫損
986	(加持方向書付)		
987	男女星祭御祈祷		
988	離宮社伝来地鎮祭鏝付大略之凶		
989	地鎮祭次第		
990	(祭神書上)		「応仁天皇・仁徳天皇・宇治尊」
991	未年御取ケ之事	元禄 4.11	小堀仁右衛門→榎島村庄屋年寄百姓中
992	辰年御取ケ之事	元禄13.11	小堀仁右衛門→榎島村庄屋年寄百姓中
993	未年御取ケ之事	元禄16.11	小堀仁右衛門→榎島村庄屋年寄百姓中
994	酉年御取ケ之事	宝永 2.11	小堀仁右衛門→榎島村庄屋年寄百姓中
995	子年御取ケ之事	宝永 5.11	小堀仁右衛門→榎島村庄屋年寄百姓中
996	寅年御取ケ之事	宝永 7.11	小堀仁右衛門→榎島村庄屋年寄百姓中
997	辰年免定	正徳 2.11	小堀仁右衛門→庄屋年寄百姓中
998	午年免定	正徳 4.11	小堀仁右衛門→庄屋年寄百姓中
999	(元文五申年皆濟目録)	寛保 1. 5	増田村右衛門→右村庄屋惣百姓
1000	戌年免定	享保 3.11	小堀仁右衛門→庄屋年寄百姓中
1001	寅年御納米大豆三分一抔方勘定目録	享保 8. 6	榎島村庄屋九兵衛他→桜井孫兵衛
1002	榎島村巳御成箇免定之事	享保10.11	桜井孫兵衛→庄屋百姓
1003	酉御年貢皆濟目録	享保15.	白沢竹右衛門→右村庄屋惣百姓中
1004	亥年免定	享保16.11	鈴木小右衛門→右村庄屋惣百姓
1005	丑年免定	享保18.11	鈴木小右衛門→右村庄屋惣百姓
1006	丑御年貢皆濟目録	享保19. 5	白沢竹右衛門→右村庄屋惣百姓中



番号	資料名	年月日	備	考
935	(入用金書付)			
936	某書状(神主職につき)			
937	宮本孝信書状		→宮村勇	
938	藤右衛門書状		→宮村	
939	愚存(教導職につき)			
940	乙種工兵第一番(名札)		宮村島彦	
941	目録(熨斗等)	寅. 9	林七兵衛→宮村権太夫	
942	献立		幸吉→宮村	
943	子年大小(大小月の和歌)(元治2)甲子.			
944	江戸道中記 伊勢道中記(宿場名書上)			
945	摩訶般若波羅蜜多心經			豎
946	學術斯の道 第壹号	明治24. 1.15	京都市四条烏丸東へ入長刀鉾町斯の道本社	版 豎
947	南海自由の旗揚 第一卷			版 後欠 豎
948	神社明細記 卷壹 山城国久世郡			版 小横半
949	上杉謙信公辞世之詩作	大正 2.11.18	紀尊政	
950	(和歌書付)			
951	堪忍(和歌書付)			
952	天皇の御事を思ひて(和歌書付)		貴尊政	
953	(九重守)			版
954	宇治川電気株式会社第二期工事水路図			
955	(神道作法等書付)			
956	神拝之作法略式			
957	日供祝詞文			
958	神供祝詞			
959	神饌祝詞文			
960	神饌祝詞文			
961	祈念祝詞			
962	祝詞			
963	祝詞(神幸祭)			
964	祝詞写		四姓氏人宇治氏・佐伯氏・酒波氏・藤原氏	
965	(県祭祝詞)			
966	(祝詞)			
967	(祝詞)			
968	(祝詞)			
969	(祝詞)			
970	(祝詞書付)			

番号	資料名	年月日	備考
899	覚(石橋見積か)		
900	覚(薬料書付)		
901	(高反別書上)		
902	差入申一札之事(光雲寺祠堂銀拝借につき)		宮村他→上林
903	預り申金子之事		宮村勇他→山下寅吉
904	覚(金子勘定)		宮村→[ ] 藤右衛門
905	覚(普請料勘定)		宇治大八→御村方
906	覚(入用勘定)		→宮村・酒波
907	覚(金子勘定)		御掛所□□→権太夫
908	覚(町用金子勘定)		俵長→宮むら
909	覚(金子受取)		宮□→伏見鳥屋丑之助
910	覚(金銭勘定)		宇治橋西詰米勘
911	覚(金銭勘定)		指□
912	覚(金子受取)		中川→宮村
913	覚(金子受取)		豆徳→上
914	覚(金子受取)		
915	覚(装束代金書上)		
916	覚(米代等勘定)		
917	覚(元利勘定)		
918	覚(元利勘定)		
919	覚(金子勘定)		
920	覚(金子勘定)		
921	覚(金子勘定)		
922	覚(諸入用書上)		
923	覚(町用入用勘定)		
924	覚(戸代勘定)		
925	覚(米代等勘定)		
926	覚(米代勘定)		
927	覚(借入金書上)		
928	覚(金高書付)		
929	お房殿へ(銀高書上)		
930	(金銭勘定書)		
931	(金子勘定書)		
932	(金子勘定書)		
933	(金子勘定書)		
934	(竹代渡書)		